

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和2年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2020-2	公共交通ターミナル整備の空間経済分析に関する研究開発	金沢大学 准教授 高山 雄貴	A
<p><研究の概要></p> <p>本研究では、公共交通ターミナル整備がもたらす長期的・広域的な効果の空間分布を計量化するための空間経済分析手法を開発する。具体的には、公共交通ターミナル整備が都市内交通・土地利用に与える影響を評価する手法と、高速バス網の拡充による周辺地域への波及効果を評価する手法を開発する。そして、これらの手法により、実都市（札幌、金沢を想定）でのターミナル整備により長期間・広範囲に渡って発現する効果を計測する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>研究の全体像が明確であり、個々の分析も順調に検討が進んでいる。今年度開発したサブモデル等を用いて最終的な評価手法等を構築していくことが期待できることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none">・バスのダイヤ、路線の大幅な変化という事象への対応について検討いただきたい。・それぞれの研究開発は学術的には優れたものになると期待される。しかし、バスターミナルの特性を考慮した分析手法の開発であることが必ずしも明確ではない。特定課題であることを踏まえると、バスタのようなノード施設の配置が地域に及ぼす影響をどのように捉え、どのような波及効果や便益を計測する必要があるのかという観点から研究開発が行われることが望ましい。特定課題としての位置づけに留意して研究を進めていただきたい。・次年度以降は、共同研究者の役割分担が具体的にわかるように記載いただきたい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第42回新道路技術会議において審議したものである。